令和３年　一般社団法人大洲青年会議所　まちづくり・資質向上委員会

今こそチャレンジ！ノーマライゼーションキャンプin肱川＜実施報告＞

ダ イ ジ ェ ス ト 版

＜実施のポイント＞

大洲市や内子町内を中心とした小学生の親子を対象に、カヌー活動や河原でのテント泊を体験することで、慣れ親しんだ地域に対して様々な魅力があることに気付いてもらい、自分の住んでいる地域に興味関心を高め、郷土愛を高めてもらうことができた。

　また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、家族でのキャンプなどが流行っていることも踏まえ、如法寺河原を活用したキャンプを実施する市民に向けて、適切な情報の発信を行い、河原で活動する上でのルール等を提案した。

＜日時＞

令和３年７月２２日（木・祝）～７月２３日（水・祝）【１泊２日】

＜場所＞

大洲市柚木（如法寺河原～肱川橋付近（肱川緑地・肱南ピクニックランド側））

＜参加者＞

親子８組１８名、キャンセル２組４名

＜スタッフ＞

大洲青年会議所１８名、大洲市カヌー協会５名

＜概要＞

開会式の様子

濱田理事長による挨拶

カヌーの説明の様子

親子でカヌー体験

大洲城までカヌーツーリング

親子で後片付けの実施

臥龍山荘などの観光名所など親子に説明を行った。

全体集合写真

親子でテント設営

夕食づくり

夜は親子で一緒にテント泊

たき火などで夜を楽しむ

大洲の風物詩　鵜飼い舟の見学

１日目の午後から親子でカヌーを漕艇し、川上から大洲の町並みや観光地でもある臥龍山荘、大洲城を観察したり、川にせり出している木の下に行ってみたりと自然に親しむ様子があった。また、会員により、昔の大洲の様子などの解説を行い、当時の様子を知るきっかけとなっていた。夜にはテントを設営し、親子で思い思いの時間を過ごしてもらった。普段河原で一晩を過ごすことがない中で、たき火の火の音や夜の河原の涼しさなど、身をもって体験していた。また、大洲の風物詩である鵜飼い舟が通り過ぎると川近くに集まり見学する様子もあった。

参加者のアンケートから、「今後は大洲の文化財を巡ったりする企画などがあるともっと大洲のことを知ることができる」などの声もあり、自分の町について興味関心を高めるきっかけにもなっており、郷土愛を育むことができたと考える。

今回、参加協力団体として福祉施設団体から身体障がい者の参加枠を設けていたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、参加が叶わなかったため、今後このような企画を実施する際には、様々な方が参加できるような機会を提供できるように努めていきたい。

また、今回の活動を発端に、会場として利用した如法寺河原の河原の使用方法について WEB 上で発信を行った。多くの方に河原の使い方やルールを知ってもらうだけでなく、大洲についても知ってもらえるように、一過性のイベントで終わることなく、情報として提供することで、大洲の魅了を伝えるきっかえに伝わるようにできたと考える。